

**三十三地区の宝 みそみっ子****若狭町立みそみ小学校**

## 1 取り組みの概要

## (1) 地域や家庭と学校の連携実績

項 目	回 数
地域・学校協議会	3 回
中学校区を単位とした協議会	0 回
地域及び家庭への学校公開	10回 (のべ) 10日

## (2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	18人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	6人
登下校支援ボランティア	1950人
その他 (図書ボランティア)	40人

## (3) 特色ある活動

テーマ「心の教育の充実」

具体的  
活動内容

生き物の観察や池の保全活動をとおして、人と自然の共生のあり方について考える。

## 取り組みの概要

## ① 池の保全活動 (5年生)

ヘドロが多く生き物が少ない池を、みんなが集まる楽しい池にしようとの願いから「池プロジェクト」をスタートした。生き物調査や大掃除をし、ビオトープの専門家のアドバイスを受けながら、地域の田んぼから植物を移植した。



## ② 昔の水辺の話聞いて絵を描こう (2・5年生)

地域の方に、昔の水辺にはどんな生き物がいたのか、また、どのようにしてつかまえたり食べたりしたかのお話を聞き、それを絵にした。子どもたちは、図鑑を見ながら、生き物の絵を描いたり、水辺の環境についても詳しく聞いたりしながら絵に表した。

## ③ 串小川の生き物観察 (1・2年生)

学校近くのハス川と隣校区の串小川には、どんな生き物がいるのだろうかに興味をもって意欲的に生き物をさがし、図鑑等で調べた。

## ④ 三方湖の外来魚について (2年生)

子どもが休日につかまえてきたブルーギルから発展した学習である。三方湖での外来魚調査の様子を見学した後、ハス川河口地点での生き物調査を行った。

## ⑤ 外来生物についての講演会 (全学年)

外来種がいろいろな問題を起こしていることやその理由について、理解を深めた。

## 成果と課題

池の保全活動では、その後、植物が繁茂して水も澄み、イトトンボなども多く飛来するようになった。池の周辺に多くの児童が集まるようになり、池で遊ぶ姿も見られるようになった。「みそみ地区を人と自然がともに生活しやすい環境にしたい」と考えるようになった。

昔の水辺の話聞いて絵を描く学習では、三方湖にウナギやエビがいたと聞き、早速三方湖周辺へ出かける子どもも出てきた。さらに、自分たちが住んでいる地区を、今後どのような自然環境にしていきたいかという具体的なイメージももつことができた。

今後は、自分たちに何ができるかを考え実際の保全活動へつげていけるとよい。そして、自分たち同士が住みやすい生活をめざすのはもちろん、人と自然の共生についてもさらに深く考え合い、実行していけるとよい。